そのまま教室に掲示！

進路環境D

—「今」が見えてく

進学の動向

大学満足度は教育方針や校風と高い相関

［卒業時の大学評価項目の中で、大学満足度との相関が高かった項目］

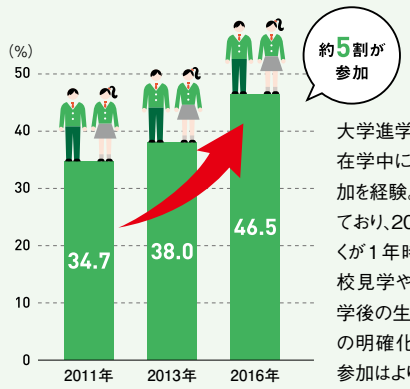
順位	大学評価項目
1位	教育方針や校風に魅力がある
2位	たくさんの先輩・後輩・友人と出会える
3位	幅広い知識・教養が身につけられる授業が多い
4位	友人・知人など周囲の評判がよい
	優れた先生に出会える

大学を卒業する先輩に、在籍した大学に対する調査を行ったところ、満足度との相関が最も高かったのが「教育方針や校風に魅力がある」。ほか、交友関係や授業など幅広い項目が上位に挙がった。大学名や偏差値だけで判断せず、こうした項目にも着目して自分に合う進学先を選ぶことが大切だ。

リクルート進学総研「卒業時満足度調査2015」 ※大学卒業時の調査において在籍大学に対する「総合満足度」と「卒業時の評価」の各項目との相関係数を算出し、上位5項目を掲載

オープンキャンパス参加は早期化の傾向

［高校1年でのオープンキャンパス参加状況］

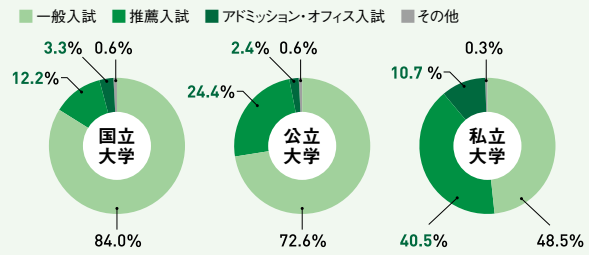


大学進学者の9割以上が高校在学中にオープンキャンパス参加を経験。その時期は早期化しており、2016年調査では5割近くが1年時に参加している。学校見学や模擬授業によって進学後の生活をイメージでき、目標の明確化につながる。早期の参加はより効果的だ。

リクルート進学総研「進学センサス2016」 ※グラフは大学進学者の回答

国立大の推薦、AO等入学者が2割に近づく

［入試方式別に見た大学入学者の割合］

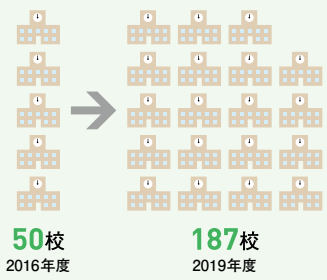


2020年度「大学入学共通テスト」の開始など大学入学者選抜改革が進むなか、各大学でも志願者を多面的・総合的に評価する動きが活発化している。国立大学協会は国立の推薦、AO等による入学者を3割に増やす目標を設定。現在は2割弱だが着実に増加中。受験生は最新情報で対策を。

文部科学省「平成29年度国公私立大学入学者選抜実施状況」より集計
※「その他」は専門高校・総合学科卒業生入試、帰国子女入試、中国引揚者等子女入試、社会人入試の合計

入試に英語外部検定を利用する大学が急増

［一般入試で4技能英語検定を利用する大学数］



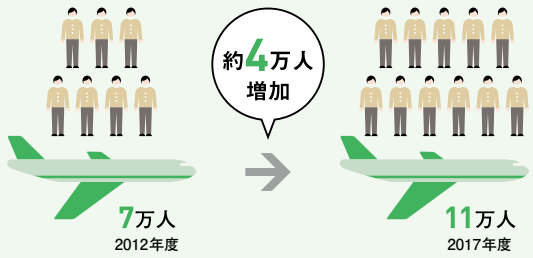
英語4技能（読む・聞く・書く・話す）を測る、民間の外部検定を一般入試に利用する大学は、3年で4倍近くに増加。利用方法は、外検スコアを個別試験の得点に換算するパターンが最多。大学入試のためだけでなく、その先にあるグローバル社会を見据え、4技能の習得を目指したい。

＜利用方法＞ 得点換算…61.3%　出願資格…23.4%　加点…12.5%　判定優遇・合否参考…2.8%

旺文社 教育情報センター「2019年度入試 英語外部検定利用状況（一般入試編）」

留学する大学生等、年10万人を突破

［日本人学生の留学状況］



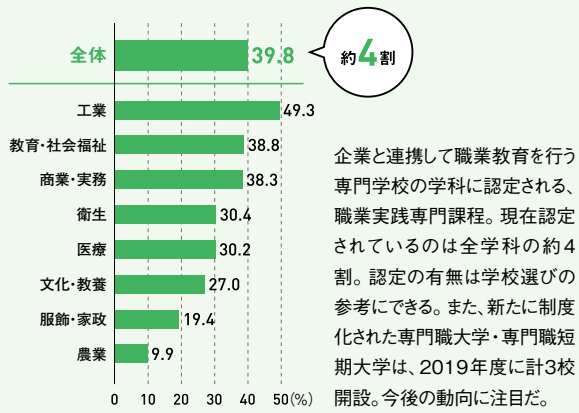
大学生等の留学数は年々増加。経験者に留学で得たものを聞いたところ、「チャレンジ精神」（70.4%）と「コミュニケーション能力」（67.0%）が「語学（英語）」（61.2%）より上位に*。留学を通じて多様な力をつけていることがわかる。

*トビタテ！留学JAPAN「就職活動と留学に関する意識調査」（2017年）

日本学生支援機構「平成29年度 協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」
※数値は協定等に基づかない日本人留学生数（在籍大学把握分）を含む

実践的な専門教育の現場に変化

［「職業実践専門課程」の認定学科の割合］

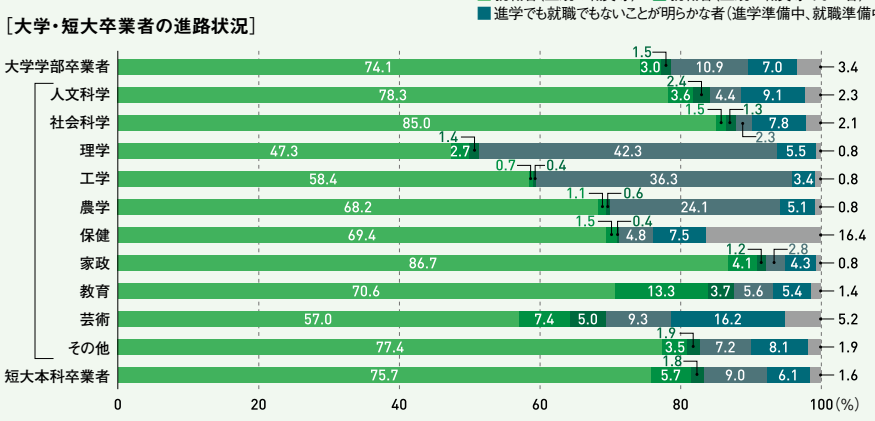


企業と連携して職業教育を行う専門学校の学科に認定される、職業実践専門課程。現在認定されているのは全学科の約4割。認定の有無は学校選びの参考にできる。また、新たに制度化された専門職大学・専門職短期大学は、2019年度に計3校開設。今後の動向に注目だ。

文部科学省「『職業実践専門課程』の認定状況」（平成31年3月5日現在）

大卒者の14人に1人は無業

［大学・短大卒業者の進路状況］

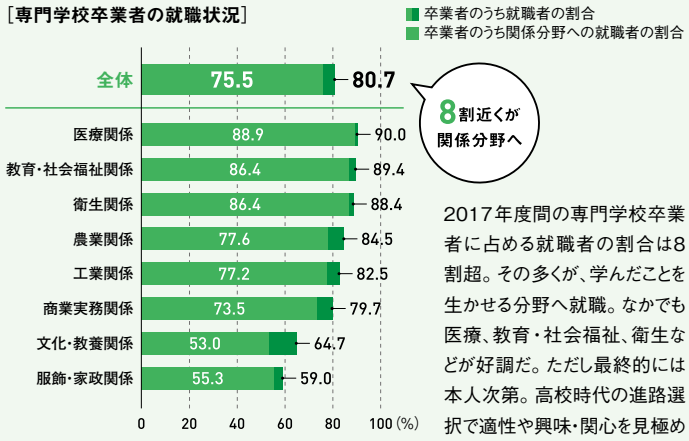


2018年大学卒業者全体に占める就職者の割合は77.1%で前年比微増。大学院等への進学者は全体で10.9%だが、理系学部の比率は高め。就職が好調ななか、進学でも就職でもない（無業）者が7.0%存在。なぜその学部で学ぶのか、高校時代から大学卒業後を見据え、目的・目標をもって進学することが大切だ。

文部科学省「学校基本調査」（2018年3月卒業者について） ※「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者（就職しかつ進学した者を含む）
※「正規の職員等でない者」とは、雇用の期間が1年以上の期間の定めのある者で、かつ1週間の所定労働時間が40～30時間の者
※グラフでは「臨床研修医（予定者を含む）」「専修学校・外国の学校等入学者」「不詳・死亡の者」を「その他」として集計

職に直結しやすい専門学校の学び

［専門学校卒業者の就職状況］



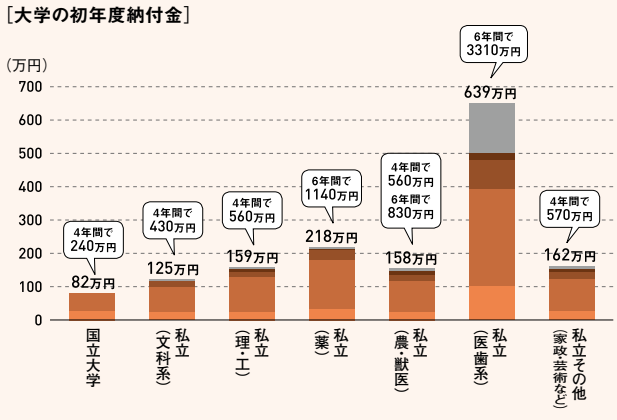
2017年度間の専門学校卒業者に占める就職者の割合は8割超。その多くが、学んだことを生かせる分野へ就職。なかでも医療、教育・社会福祉、衛生などが好調だ。ただし最終的には本人次第。高校時代の進路選択で適性や興味・関心を見極めたうえで進学を。

文部科学省「学校基本調査」（2017年度間）

進学費用の動向

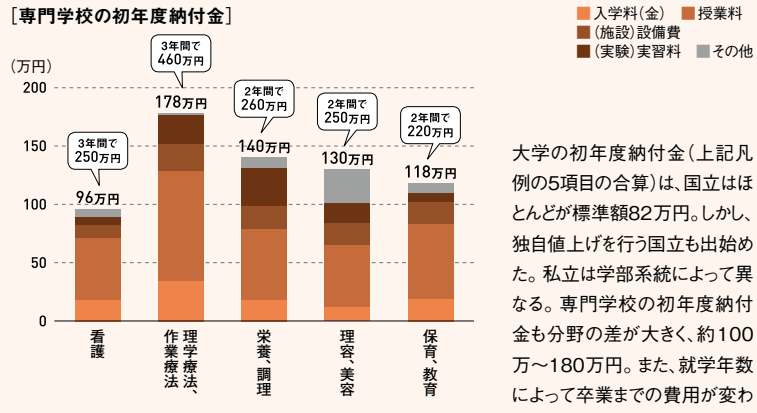
初年度学納金は約100万円～。分野によって大きな差

［大学の初年度納付金］



文部科学省「平成29年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額（定員1人当たり）」（昼間部）
※国立大学は標準額　※1万円未満は四捨五入　※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

［専門学校の初年度納付金］



東京都専修学校各種学校協会「平成30年度 学生・生徒納付金調査結果」専門課程（専門学校）平均（昼間部）より抜粋
※1万円未満は四捨五入　※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

大学の初年度納付金（上記凡例の5項目の合算）は、国立はほとんどが標準額82万円。しかし、独自値上げを行う国立も出始めた。私立は学部系統によって異なる。専門学校の初年度納付金も分野の差が大きく、約100万～180万円。また、就学年数によって卒業までの費用が変わるので、入学前に総額の見通しを立てておくことが大切だ。